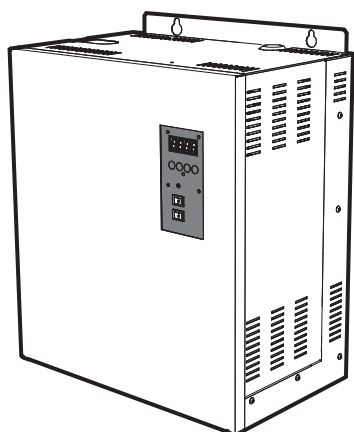


空調機・チャンバ組込用  
室内直接噴霧用 電熱式蒸気加湿器

# WM-SJB タイプ

## 取扱説明書



### <空調機器組込型>

SJB03/SJB07/SJB14/SJB28




SJB42/SJB56/SJB85

### <室内直接噴霧型>

SJB03FB/SJB07FB/SJB14FB

加湿器本体の標準仕様と室内直接噴霧型 (SJB-FB)は構造、制御が異なるため、現地での変更・切り替えはできません。

- このたびはウエットマスター電熱式蒸気加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
- この取扱説明書には加湿器の運転動作、運転管理、一般保守要領、安全についての注意事項などを記載しています。この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、作業の前に必ずお読みいただき、正しい取り扱いを行ってください。
- 本加湿器は供給水に、軟水または一次純水を使用します。軟水をご使用の場合は、軟水器の説明書類も必ずお読みいただき、正しい施工・取り扱いをお願いします。
- 本書の内容以外に関する説明は下記を参照し、該当するドキュメントをご確認ください。

施工要領書	設定要領書	試運転作業要領書
加湿器本体の取付、給排水接続、電気配線（計装）など、加湿器の施工に関する説明を記載しています。	出荷時設定から変更を行う場合の手順について記載しています。	施工完了後、加湿器が正常に作動するかの試運転手順について記載しています。
		

## もくじ

安全のために必ず守ること	P.1
1 ご使用前に	P.3
1-1 製品概要	P.3
2 各部の名称	P.4
2-1 本体内各部の名称	P.4
2-2 操作パネルの機能と各部の名称	P.5
3 運転動作	P.6
3-1 運転開始の前に	P.6
3-2 運転手順	P.6
4 運転管理	P.7
4-1 日常の運転管理	P.7
4-2 停電試験および瞬間停電について	P.7
4-3 長期休止の場合	P.7
4-4 運転管理項目の一覧	P.8
5 一般保守要領	P.9
5-1 作業の前に	P.9
5-2 一般保守項目	P.9
5-3 作業要領	P.10
6 部品交換周期	P.24
6-1 部品交換周期について	P.24
6-2 「一般空調」、「年間空調」が示す1年間の運転時間について	P.25
6-3 部品交換周期表	P.25
6-4 交換部品の廃棄について	P.25
7 故障かな？と思ったら	P.26
7-1 次の場合は故障ではありません	P.26
7-2 状況確認と処置一覧表	P.26
7-3 エラーコード一覧	P.27
7-4 状況確認と処置が終わったら	P.28
7-5 保証期間	P.28
8 仕様	P.29
9 参考	P.30
9-1 比例積算運転時間のリセットと変更	P.30

ご使用前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期


故障かな？  
と思ったら


仕様

参考

# 安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。


 **警告** 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの


 **注意** 誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの


•図記号の意味は以下のとおりです。


 **必ず守る**    **絶対にしない**    **触らない**    **濡手禁止**  
絶対に濡れた手で触らない    **水濡禁止**  
絶対に水に濡らさない


## 警告


 **必ず守る** **保守点検作業、部品交換は設備機器に関する知識および作業経験者が行う**  
作業に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。


 **必ず守る** **メンテナンス作業は、必ず漏電ブレーカを遮断してから行う**  
通電したままの作業は、感電の原因になります。


 **必ず守る** **高所作業時の安全を確保する**  
高さが2メートル以上の箇所で行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。


 **必ず守る** **活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用するか、活線作業用器具を使用する**  
適切な保護具、器具を使用しない場合、感電の原因になります。


 **必ず守る** **作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用してください**  
やけど・けがの原因になります。


 **触らない** **運転中および運転停止直後の本体内部・蒸気ホース・蒸気噴霧管・接続配管には触れない**  
高温部に触れるとやけどの原因になります。


 **触らない** **運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れない**  
やけど・感電の原因になります。


 **絶対しない** **移設・再設置は自分でしない**  
工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。専門業者に依頼してください。


 **絶対しない** **改造はしない**  
故障や水もれ・感電・火災の原因になります。

 **絶対しない** **交換用部品は当社指定外のものを使用しない**  
指定外の部品を取り付けた場合、故障や水もれ・感電・火災の原因になります。

 **絶対しない** **加湿器本体に指や異物を入れない**  
吸込口や吹出口に指や異物を入れないでください。  
感電やケガの原因になります。

 **絶対しない** **本体から蒸気噴霧管までの間に、蒸気量制御用のバルブ等を設置しない**  
加熱タンクの内圧が上昇し危険です。

 **水濡禁止** **加湿器本体・操作パネルに水、液体をかけないこと**  
ショート・漏電・感電・事故・発煙・火災の原因になります。

 **濡手禁止** **濡れた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作しない**  
感電・事故・発煙・火災の原因になります。

## 注意



### 本書指定のメンテナンス作業は必ず実施する

メンテナンスがされていない場合、著しい性能低下や室内空気の汚れの原因になります。



### 高温になる排水配管は露出しないよう保温工事を行う

保温が行われない場合やけどの原因になります。



### 給水配管は結露が生じないよう保温工事を行う

結露が生じた場合、水もれによる事故の原因になります。



### 加湿器停止に起因する安全上の問題や、設備・物品などへの障害・リスクが想定される場合は、バックアップ機を設置する

加湿器は故障や誤動作が発生した場合や保守点検作業の際に運転を停止します。



### 水道法、消防法等に規制される部材の取り扱いについては、専門業者に依頼する

法令を遵守した施工が必要です。

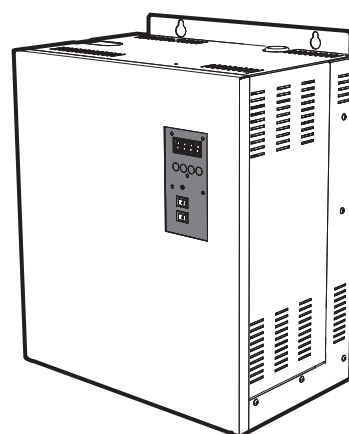
# 1 ご使用の前に

## 1-1 製品概要

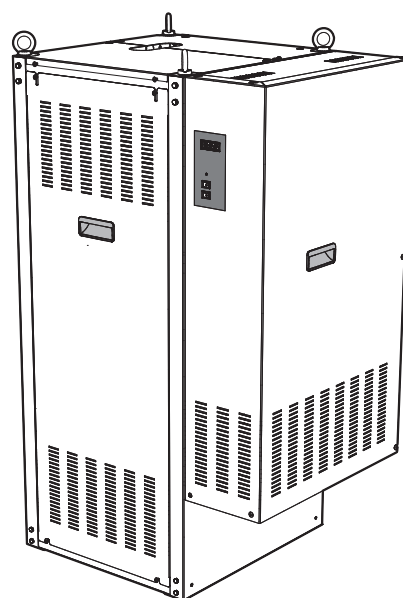
- SJB タイプはヒータの発熱により水を加熱し、加湿蒸気を発生させる電熱式蒸気加湿器です。蒸気発生の上がりと応答性に優れているため、高精度の湿度制御に対応します。
- 蒸気噴霧管を使用する空調機器組込用と蒸気ブローを使用する室内直接噴霧型の2種類を用意しており、幅広い用途にご使用いただけます。
- 室内直接噴霧型の取り扱いについては、「蒸気ブロー取付要領書」を併せてご参照ください。



蒸気ブロー取付要領書



SJB03 ~ SJB28



SJB42 ~ SJB85

ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

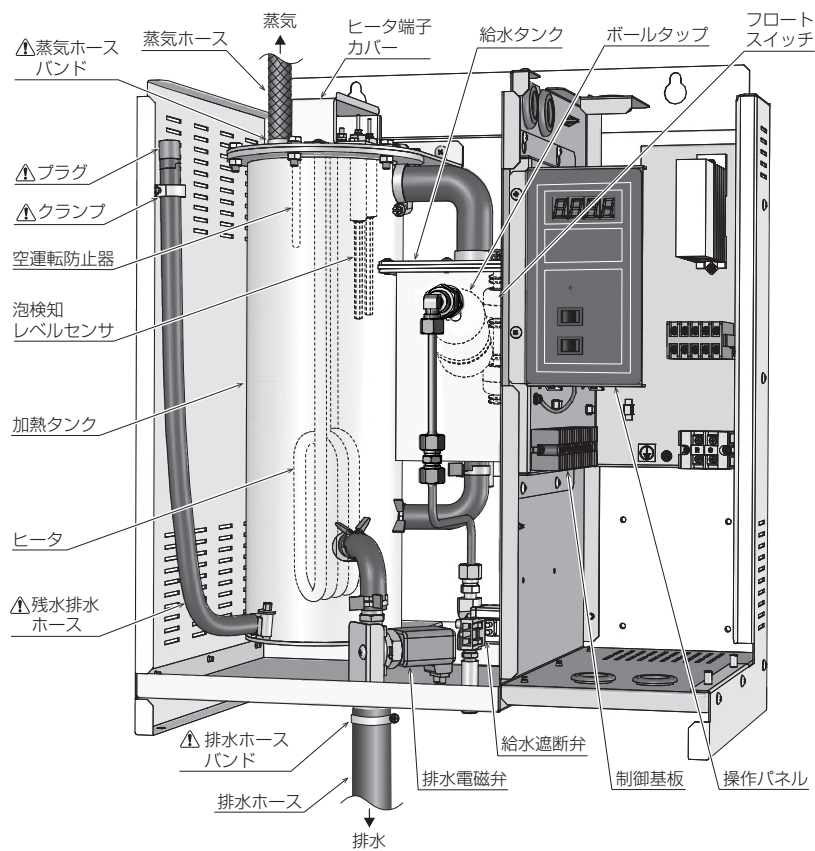
仕様

参考

# 2 各部の名称

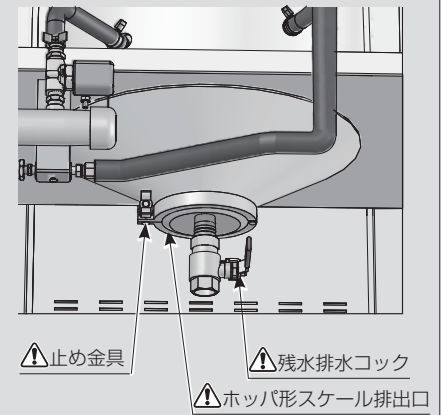
## 2-1 本体内各部の名称

図-1 本体内各部の名称



※左図はSJB03で説明しています。型番により構造などが異なるものがあります。SJB42～SJB85では、残水排水ホースの代わりに加熱タンク下部に残水排水コックがつきます(下図参考)。

SJB42～SJB85の加熱タンク下部



ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら

仕様

参考

## 2-2 操作パネルの機能と各部の名称

### ①表示部

加湿器の運転時間 (× 10h) や各種設定を表示します。  
 ※表示される時間の 10 倍が実際の時間となります。

### ② MODE ボタン

加湿器の各種設定の確認、設定に使用します。

### ③ UP ボタン

表示項目の切替や、数字の変更に使用します。

### ④ DOWN ボタン

表示項目の切替や、数字の変更に使用します。

### ⑤ ENT ボタン

設定項目の決定に使用します。

### ⑥加湿表示灯 (赤)

加湿器が加湿運転中、赤色に点灯します。連動運転している場合、連動台数設定エラー時および通信異常時に点滅します。

### ⑦電源スイッチ

加湿器の電源を ON/OFF します (○部を押すと ON になります)。

### ⑧手動排水スイッチ

加湿器の加熱タンク内の水を排水します (○部を押すと ON になります)。



### 【表示部 (①) の詳細】

#### A の点灯/消灯：低水位表示


加熱タンク内の水位を検知し、点灯 / 消灯を行います。操作パネルの電源スイッチ ON 後、加熱タンク内の水位が低水位の場合に、ドットが点灯します。この表示が消灯しないと、加湿運転は開始しません。

#### B の点灯/消灯：予熱機能表示

加熱タンクの予熱機能の設定有無を表示します。予熱機能を設定している場合、水温は 70 ~ 80℃ となり、表示が点灯します。なお、予熱機能が設定されている場合においても加湿運転中やファンインタロック OFF 時に表示は消灯します。

# 3 運転動作

## 3-1 運転開始の前に

 <b>警告</b>	<b>試運転前に必ず P.4 図-1 の△マークを付記した部位の閉止を確認する</b>
	❗ 運転中に開放したり開放したまま運転すると、蒸気やドレンの噴出により、やけど等の事故の原因になります。
	<b>運転中および運転停止直後の本体内部・蒸気ホース・蒸気噴霧管・接続配管には触れない</b>
	❗ 高温部に触れるとやけどの原因になります。






- 運転前には給水配管のフラッシングを行ってください(P.10 No.1 参照)。
- 以下の手順で運転準備を行ってください。

- 1) P.4 図-1 の△マークを付記した部位の閉止を確認する
- 2) 加湿器を組み込んだ（インタロックをとった）空調機を運転する
- 3) 給水サービス弁を開ける
- 4) ヒューミディスタットを希望湿度に設定する
- 5) 操作パネルの手動排水スイッチを OFF にする
- 6) 加湿器専用の漏電ブレーカを ON にする

## 3-2 運転手順

### 1) 電源 ON

操作パネルの電源スイッチを ON にすると「操作パネル表示部点灯と加湿表示灯点灯」⇒「基板プログラムナンバー表示」⇒「比例積算運転時間表示」の後、給水を開始します。

	<b>1.</b> 操作パネルの電源スイッチを ON にします。
	<b>2.</b> 表示部と、加湿表示灯が 3 秒間点灯します。
	<b>3.</b> 基板プログラムナンバーが 1 秒間表示されます。 ※ 例) プログラム番号 021 の場合の表示
	<b>4.</b> 比例積算運転時間が表示されます（初期設定は 0 時間です。時間表示は× 10 時間ですので、試運転で 10 時間運転している場合は  と表示されます）。 また、加湿運転可能な状態であれば、加湿表示灯が点灯します。

### 2) 運転開始

加熱タンク内の水位が運転水位に達するまで給水された後、ヒータへ通電を開始します。この時、操作パネルの加湿表示灯の点灯を確認してください。外部信号を取り出している場合は、運転信号の出力も確認してください。なお、ヒータに通電を開始してから加湿蒸気発生まで、若干の立ち上がり時間を要します。

### 3) 自動運転

運転開始後は、加熱タンク内の水位は給水タンク内のボールタップにより一定レベルに保たれ、運転を継続します。

### 4) 定時排水

加熱タンク内の水の濃縮、スケール生成を抑制するため、運転時間に応じて定時排水（自動排水、約 10 分に 1 回）を行います。

※定時排水時の排水量は供給水質および型番により変動します。

例) SJB85 で軟水を供給している場合、1 回につき約 2.4 ℓ 排水します。

ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

仕様

参考

# 4 運転管理

## 4-1 日常の運転管理

### 4-1-1 加湿器の発停

- 加湿器は、ヒューミディスタットからの加湿信号と空調機の発停に伴って自動発停します。従って夜間や休日などに運転を停止（長期休止の場合を除く）する場合は、特に加湿器のスイッチやバルブ等进行操作する必要はありません。
- 自動発停による停止中に加湿器の電源を OFF にすると、万一何らかの異常が発生した場合に加湿器の安全保護機能が動作しません。自動発停による停止中も加湿器の元電源および電源スイッチは ON のままにしておいてください。
- ON-OFF 制御のヒューミディスタットが OFF の時、およびインタロックをとった空調機が運転していない場合は、操作パネルの電源スイッチを ON にしても運転しません。この場合、操作パネルの表示画面のみ点灯します。
- 操作パネルの電源スイッチを OFF にする場合は、安全のため加湿器電源系統の漏電ブレーカを OFF にして必ず給水サービス弁を閉めてください。

### 4-1-2 運転中の点検項目（定期点検表示灯の点灯）

- 運転中は定期的に巡回点検を行い、操作パネル表示部に警報表示（P.27 参照）や予報表示（P.28 参照）がないこと、および各部からの蒸気もれ・水もれの少ないこと、排水配管に詰まりなどがなくスムーズに流れることを確認してください。点検清掃の予報表示が表示されている場合には、P.9 「5 一般保守要領」を参照して作業を行ってください。なお、異常があった場合は、P.26 「5 故障かな？と思ったら」を参照して対処してください。

## 4-2 停電試験および瞬間停電について



注意

加湿器の停電試験を行う際は、必ず給水サービス弁を閉める

- ❗ 万一、給水遮断弁が故障している場合、通水状態で電源を遮断すると排水電磁弁が作動せず、漏水事故の原因になります。

- 運転中に停電が発生した場合は運転が止まり、復電時に運転を再開します。
- 瞬間停電の場合、停電時間が 0.02 秒以下では運転を継続し、0.2 秒を超えると運転を停止します。
- 異常中に停電となった場合、停電中に異常の原因が取り除かれれば、復電後正常運転に戻ります。

## 4-3 長期休止の場合

- 連続して 1 週間以上の運転休止期間をとる場合や加湿のシーズンオフ・シーズンイン時など、長期休止の前には所定の保守点検作業が必要になります。P.9 「5 一般保守要領」を参照して、確実に作業を行ってください。
- 長期休止の場合には、所定の保守点検作業終了後に、以下の内容を再度確認してください。

- 給水サービス弁が閉止されていること
- P.4 図-1 の ⚠ マークを付記した部位が閉止されていること
- 加湿器の電源スイッチおよび漏電ブレーカが OFF になっていること

使用前の  
各部の名称

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら

仕様

参考



## 4-4 運転管理項目の一覧

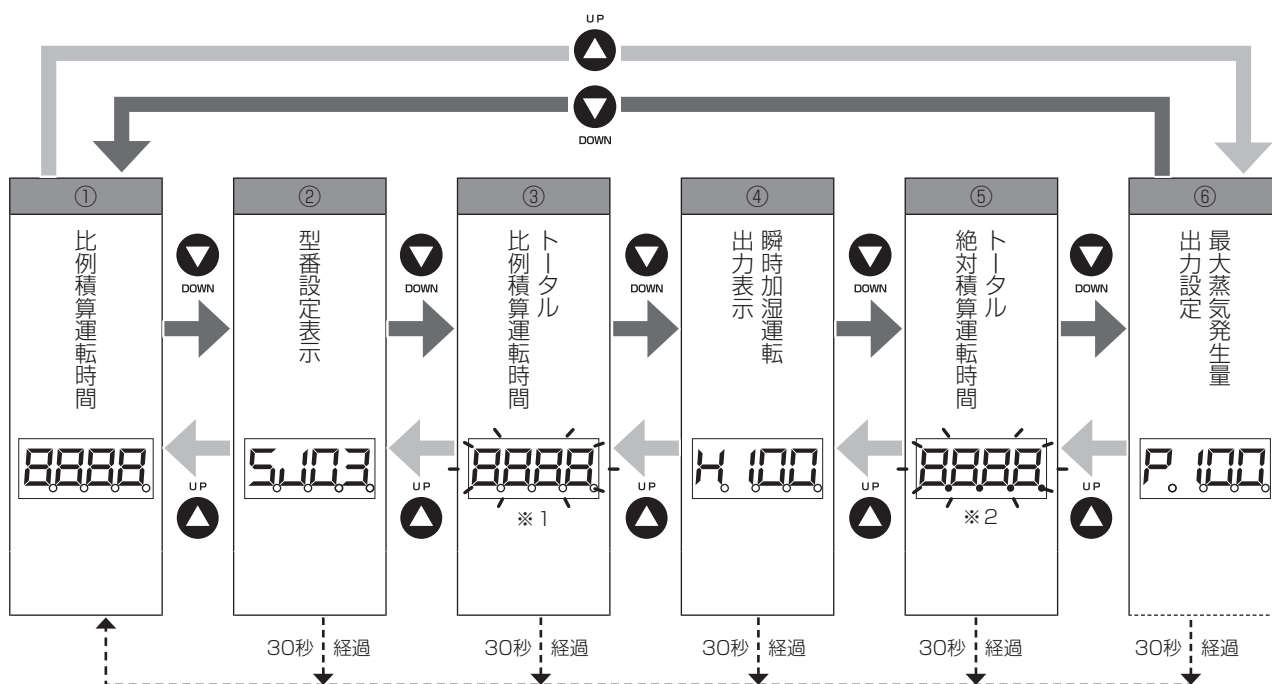
- SJB タイプは下記表内の6種類の運転管理項目を表示し、確認することが可能です。各項目の内容は下表を参照してください。
- 各項目を確認するための操作方法は図-2を参照してください。

### 【運転管理項目一覧】


No.	表示項目	内容
①	比例積算運転時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 比例運転におけるフル運転換算時の運転時間を積算し表示します。 (例：出力 50%、20 時間運転の場合、比例積算運転時間は 10 時間)</li> <li>■ 運転時間のリセットおよび時間変更が可能です。</li> <li>■ 比例積算運転時間のリセットおよび時間変更の操作については P.30 「9 参考」をご参照ください。</li> </ul>
②	型番設定表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 加湿器型番を表示します。</li> </ul>
③	トータル比例積算運転時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 比例運転におけるフル運転換算時の延べ運転時間を積算し表示します。 ※このときの運転時間はリセットできません。</li> </ul>
④	瞬時加湿運転出力表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 入力信号値を算出し、瞬時パーセント表示を行います。</li> <li>■ 5秒毎に自動更新します。表示は下3桁で1%毎の表示です(例:5%のとき⇒<b>H005</b>、100%のとき⇒<b>H100</b>)。</li> <li>■ 蒸気発生量の上限設定が行われている場合においても、その型番の最大蒸気発生量に対する加湿出力を表示します(最大蒸気発生量上限設定が「50%」の場合においても、入力信号要求が「100%」であれば、「100%」が表示されます)。</li> </ul>
⑤	トータル絶対積算運転時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 加湿器の比例出力に関係なく加湿器が運転した延べ時間を指し、その積算時間を表示します。 (例：出力 50%、20 時間運転の場合、トータル絶対積算運転時間は 20 時間)</li> <li>■ 加湿表示灯が点灯した時間と同等です。 ※このときの運転時間はリセットできません。</li> </ul>
⑥	最大蒸気発生量出力設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設定した蒸気発生量の上限值をパーセント表示します。(出荷時設定は 100%⇒<b>P100</b>)</li> <li>■ 設定範囲：20～100% (設定ステップ：5%毎)</li> <li>■ 最大蒸気発生量出力設定の操作については設定要領書をご参照ください。</li> </ul>

図-2

- 操作パネルの【UP ボタン】または【DOWN ボタン】を押すと、下図の順序に表示部が切り替わります。
  - 図中の②～⑥の項目は、無操作で 30 秒経過すると、自動的に①比例積算運転時間の表示へ切り替わります。
- ※ 1：数字のみ点滅します (ドットは点滅しません)。  
 ※ 2：数字・ドット全てが点滅します。



# 5 一般保守要領

 <b>警告</b>	保守点検作業、部品交換は設備機器に関する知識および作業経験者が行う
	❗ 作業に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
	メンテナンス作業を行う前には、本書の内容に従って運転を停止し、必ず元電源を切る
	❗ 通電したまま作業すると、感電等の事故の原因になります。
	メンテナンス作業は運転停止後2時間以上経過して、機器および配管が十分に冷えたことを必ず確認してから行う
	❗ 高温のまま作業すると、やけど等の事故の原因になります。
作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する	
❗ やけど・けがの原因になります。	

## 5-1 作業の前に

- 加湿器の機能を維持し正常に運転させるためには、定期的な保守点検作業が必要となります。本書は其中でも、日頃のお手入れとして必要な基本的内容を記載しておりますので、内容をよくお読みのうえ確実に作業を行ってください。
- 作業にあたってはP.4「図-1 本体内部各部の名称」および現場の施工図などを参照のうえ、よく確認しながら行ってください。
- パッキン類などの交換が必要な場合は、当社にて部品販売も行っておりますのでお問い合わせください。
- 当社では、機器の維持管理に便利な**定期点検契約**を設けております。加湿器の定期点検から部品交換まで、専従スタッフによる万全のアフターサービスをご提供いたします。ぜひご利用ください。

## 5-2 一般保守項目

- 下表の作業項目のNo.1～5は、P.10～「5-3 作業要領」のNo.1～5と合致しています。

No.	対象型番	作業時期	作業項目	ページ
1	SJB 全型番	設置後はじめての運転開始の前および連続した1週間以上の運転休止後の運転再開前	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水配管のフラッシング</li> <li>軟水器を併用の場合は軟水器入口側も実施</li> <li>※作業にあたっては軟水器取扱説明書を参照してください。</li> </ul>	P.10
2	SJB 全型番	設置後の運転初期（運転開始後1～2日目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水ストレーナ清掃</li> <li>軟水器を併用の場合は軟水器用のストレーナ清掃</li> <li>※作業にあたっては軟水器取扱説明書を参照してください。</li> </ul>	P.11
3-A	SJB03～SJB28	操作パネル表示部に予報コード <b>CHEC</b> <b>SECE</b> の表示および加湿シーズンオフ時	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒータ清掃</li> <li>加熱タンク清掃</li> <li>給水タンク清掃</li> </ul>	P.12
3-B	SJB42～SJB85			P.16
4	SJB 全型番	加湿シーズンオフなど連続した1週間以上の運転休止の前	<ul style="list-style-type: none"> <li>加熱タンクの残水排水</li> </ul>	P.20
5	SJB 全型番	年1回（加湿シーズンイン時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>給水配管のフラッシング</li> <li>軟水器を併用の場合は軟水器入口側も実施</li> <li>※作業にあたっては軟水器取扱説明書を参照してください。</li> <li>給水ストレーナ清掃</li> <li>軟水器を併用の場合は軟水器用のストレーナ清掃</li> <li>※作業にあたっては軟水器取扱説明書を参照してください。</li> <li>加湿器電装部点検、各ホース点検</li> </ul>	P.21

- No.3の作業項目のヒータ清掃において、ヒータの交換が必要な場合は当社による交換作業となりますのでお問い合わせください。

ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

仕様


参考

- P.9 の作業のほかに、使用年数などに応じたオーバーホールが必要になります。この内容はより安全上の注意が必要なため本書には記載しておりませんので、当社宛お問い合わせください。

No.	対応型番	作業時期	作業項目
—	SJB 全型番	3年ごと	オーバーホール（部品交換を含む）
<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ オーバーホールではヒータなどの点検を行います。ヒータは表面の汚れと絶縁抵抗値をチェックし、清掃を実施します。パッキン類についてはリーク防止の安全のため、オーバーホールの都度交換します。</li> <li>▪ 年間を通して運転される場合（年間を通した1日24時間運転を含む）は、年1回のオーバーホールが必要になります。</li> </ul>			

**お願い** 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則」（略称：建築物衛生法、2003年4月施行）では、加湿装置は使用開始時および使用期間中の1ヵ月以内ごとに1回の定期点検（必要に応じて清掃）、排水受け（ドレン受け等）を備えるものは同じく1ヵ月以内ごとに1回の定期点検（必要に応じて清掃）、1年に1回の定期的な清掃を求めています。準拠した対応をお願いします。

## 5-3 作業要領

<b>No. 1</b>	作業項目	給水配管のフラッシング (軟水器を併用の場合は軟水器入口側も実施 ※軟水器取扱説明書を参照)	【動画】 給水配管の フラッシング 
	作業時期	設置後初めての運転開始の前および 連続した1週間以上の運転休止後の運転再開前	

### 【給水配管のフラッシング】

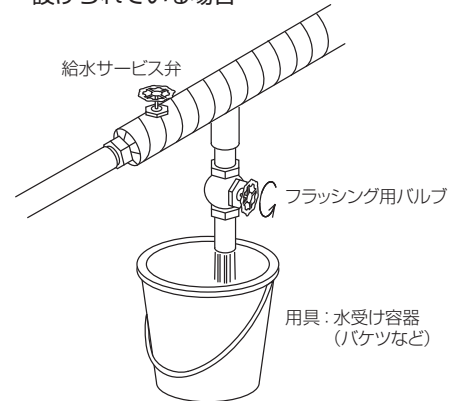
**⚠ 注意** **バルブ類を開ける際は、周囲に漏水しないことを確認しながら作業をする**

❗ 作業後にも漏水のチェックは確実に行ってください。

1) 現場配管の状況に応じた方法で、給水配管のフラッシングを実施します。給水がきれいになるまで十分に放水してください(図-3、図-4)。

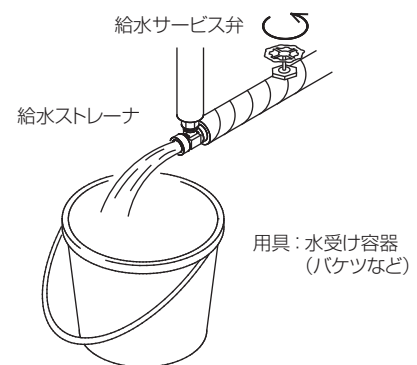
- 断熱材を外すときは、復旧時の養生を考慮して行ってください。
- 必ずダブルレンチで作業し、配管との接続部が緩まないようにしてください。
- 内部の残水が出る場合がありますのでご注意ください。
- 給水圧力が高い場合や、エアが入っている場合など、水が勢いよく吹き出すことがありますのでご注意ください。

図-3 給水配管にフラッシング用バルブが  
設けられている場合



上図は実施例です。  
給水が無色透明、無臭になるまで十分に放水してください。

図-4 給水ストレーナからフラッシングする場合



※給水サービス弁は徐々に開けること  
※給水がきれいになるまで十分にフラッシングすること

ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら

仕様

参考

## No.2

作業項目	給水ストレーナ清掃 (軟水器を併用の場合は軟水器用のストレーナ清掃 ※軟水器取扱説明書を参照)
作業時期	設置後の運転初期 (運転開始後 1 ~ 2 日目)

### 【給水ストレーナ清掃】

- 1) 給水サービス弁を閉めます。
- 2) 2本のモンキーレンチを使用して給水ストレーナのキャップを緩め、取り外します(図-5)。

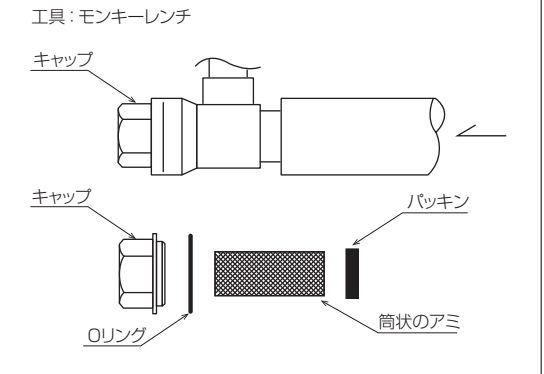
- モンキーレンチは必ず2本使用してください。
- 保温材を外すときは、復旧時の養生を考慮して行ってください。
- 内部の残水が出てくる場合がありますのでご注意ください。

- 3) 筒状のアミをきれいな水で洗います。

- 小さな部品なので、紛失にご注意ください。
- アミの内側にゴミ・異物が詰まっていないことを確認してください。
- キャップのOリングが切れていないことを確認してください。切れている場合は新しいものと交換してください。

- 4) 給水ストレーナを元のとおりに取り付け、キャップを締め込みます。
- 5) 給水サービス弁を開けて通水し、水もれがないことを確認します。
- 6) 保温材の養生を行います。

図-5



使用前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

仕様

参考

### 【運転再開】

#### 運転を開始する前に、下記の部位の閉止を必ず確認する(P.4 図-1 参照)

❗ 下記の部位を開放したまま運転すると、蒸気やドレンの噴出により、やけど等の事故の原因になります。

⚠ 警告

- 給水ストレーナのキャップ
- 残水排水ホースのプラグ (SJB03 ~ SJB28)
- 加熱タンク残水排水コック (SJB42 ~ SJB85)
- ホッパ形スケール排出口の止め金具 (SJB42 ~ SJB85)

- 1) 上記の警告欄に示した部位の閉止を確認します。
- 2) 給水サービス弁を開けます。
- 3) 操作パネルの手動排水スイッチを OFF にします。
- 4) 加湿器の漏電ブレーカを ON にします。
- 5) 電源スイッチを ON にして運転を再開します。

- 運転再開後は、各部からの蒸気もれ・水もれ等のないことを必ず確認してください。

<b>No.3-A</b>	作業項目	ヒータ清掃・加熱タンク清掃・給水タンク清掃
	作業時期	操作パネル表示部に予報コード「CHEC」「SECE」の表示および加湿シーズンオフ時

本項は、SJB03～SJB28の加湿器に適用する作業です。  
 必要な工具など：対辺7mmボックスドライバ、プラスドライバ、モンキーレンチ、トルクレンチ、ウエス、タワシ、  
 テスタ、Oリング(加熱タンク天板用)

**警告** 作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する  
 ① やけど・けがの原因になります。

**【ヒータ清掃】**

加熱タンク内部を点検して、ヒータ表面にスケールが付着している場合には、ヒータの清掃作業が必要です。汚れの状況により、適宜実施してください。

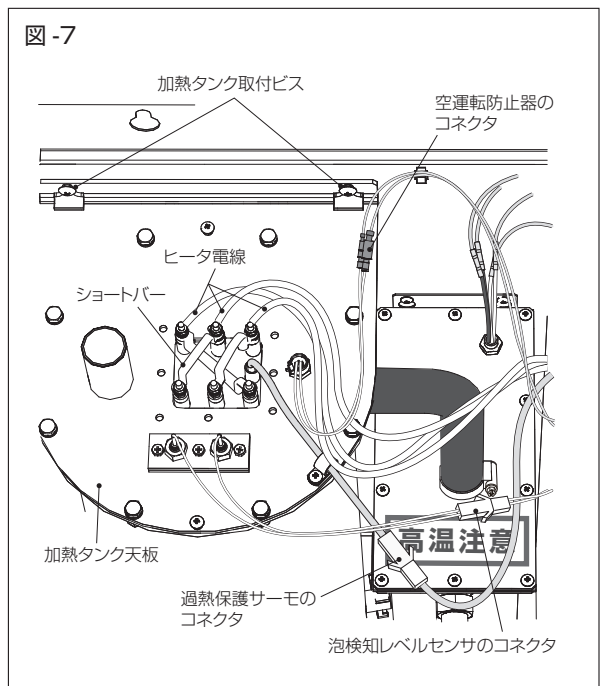
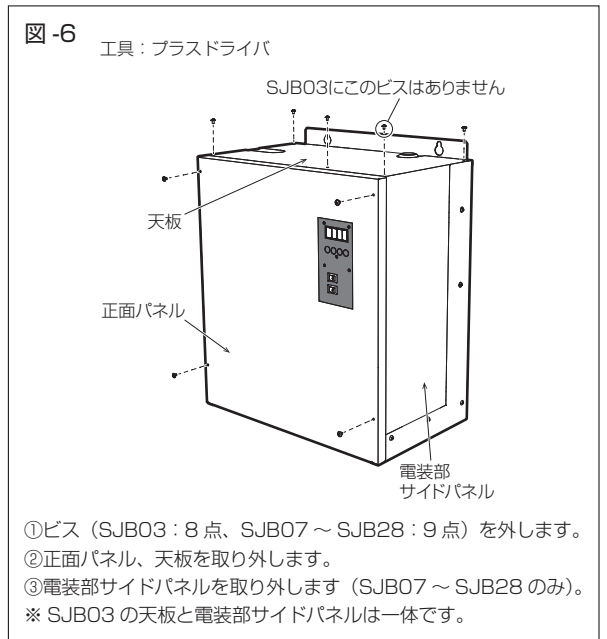
- 1) 給水サーブ弁を閉めます。
- 2) 操作パネルの電源スイッチをONにします。
- 3) 操作パネルの手动排水スイッチをONにします。
- 4) そのまま15分ほど経過した後、操作パネルの手动排水スイッチをOFFにします。

▪ 手动排水の状態で20分以上放置すると、低水位検知機能により低水位表示灯が点灯(異常出力)しますが異常ではありません。操作パネルの電源スイッチを一旦OFFにしてからONにし、再起動することでリセットできます。

- 5) 操作パネルの電源スイッチをOFFにします。
- 6) 加湿器電源系統の漏電ブレーカをOFFにします。
- 7) この状態で2時間以上放置して、機器・配管が冷えるのを待ちます。

**警告** 機器・配管が冷えていることを確認する  
 ① 高温のまま作業するとやけどの原因になります。

- 8) 加湿器本体ケーシングを取り外します(図-6)。
- 9) 加熱タンクに接続している蒸気ホースのホースバンドを緩めて蒸気ホースを外します。
- 10) ヒータ端子カバー(P.4 図-1 参照)を取り外します。
- 11) 過熱保護サーモのコネクタを外します(図-7)。
- 12) ヒータ電線をヒータ端子より外します(対辺7mmボックスドライバを使用)。その際にスプリングワッシャと平ワッシャを落とさないようにご注意ください。
- 13) 泡検知レベルセンサのコネクタおよび空運転防止器のコネクタを外します(図-7 参照)。
- 14) 水受け容器などを用意します。残水排水ホースをクランプから外し、先端のプラグを抜いて加熱タンクに残った水を排水します(P.4 図-1 参照)。排水後、プラグを元通り差し込みます。
- 15) 加熱タンクに接続されているすべてのホースを外します。
- 16) 加熱タンクの取付ビス(2箇所)を緩め、加熱タンクを加湿器本体から取り出します(図-7)。
- 17) 加熱タンクの天板を固定しているボルトナットを取り外します。



ご使用の前に  
 各部の名称  
 運転動作  
 運転管理  
 一般保守要領  
 部品交換周期  
 故障かな? と思ったら  
 仕様  
 参考

18)ヒータは加熱タンク天板に固定されています。ヒータ表面を傷つけないように注意して、真上に引き抜きます。この時、フランジ部が傷つかないように注意してください(図-8)。

- 蒸気発生量の大きい型番では、安定した足場をご用意ください。

19)加熱タンク上部のフランジ部のOリングを外し、Oリング溝およびフランジ面をきれいに清掃します。

20)ヒータ表面に付着したスケールをウエスで拭き取ります。

- スケールが固着している場合でも、真ちゅうブラシで軽く落とす程度にとどめてください。ヒータ表面が傷つくと故障の原因となります。スケールの固着がひどく取り除けない場合は、ヒータ交換が必要です。当社による交換作業となりますのでお問い合わせください。
- ヒータ交換が必要な場合は、必ず当社にご依頼ください。

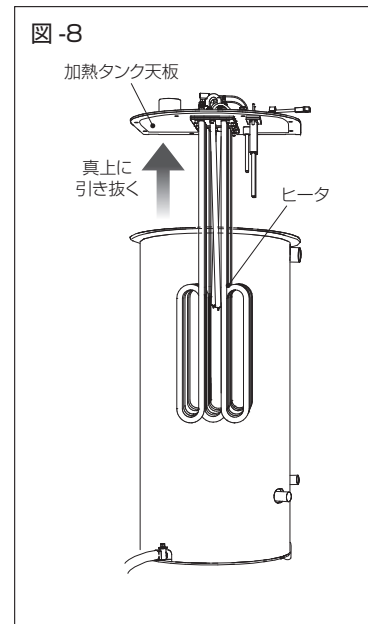
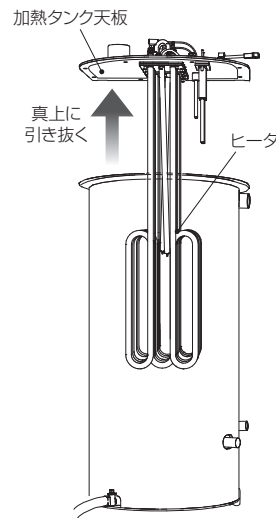


図-8



### 【加熱タンク清掃】

加熱タンク内部を点検して、加熱タンク表面にスケールが付着している場合には、加熱タンクの清掃作業が必要です。汚れの状況により、適宜実施してください。

#### 警告

#### 機器・配管が冷えていることを確認する

下記の加熱タンク清掃の作業は、前述のヒータ清掃からの連続した作業手順として説明しています。加熱タンク清掃から作業をする場合には、事前に P.12【No 3-A】1)～7)の要領で作業を行い、機器および配管が十分に冷えていることを確認してください。高温のまま作業するとやけどの原因となります。

21)加熱タンクのスケールをタワシなどで落とした後、ウエスで内側を拭き取ります。

22)加熱タンク天板を元通り取り付けます(締付トルク：2.6N・m)。

- Oリングを交換してください。
- 天板を固定するボルトナットは対角締めをして均等に締め付けてください(締付トルク：2.6N・m)。

23)元通りに加熱タンクを本体に取り付けます。タンクは4箇所支持されています。下の2箇所加熱タンクのUカット部分を差し込み(ビスを締める必要はありません)、上(2箇所)の取付ビスを締め付けます。

24)加熱タンクに接続されていた各ホースを差し込んでホースバンドで固定(締付トルク：2.0N・m程度)してください。残水排水ホースは先端のプラグが差し込まれているのを確認してから、クランプで支持します。

25)元通りヒータ電線をヒータ端子に取り付けます。取り付けは図-9の番号順になります。M4ナットの締付トルクは1.5N・mです。確実に作業してください。

#### 警告

#### ヒータ電線の取付は確実に作業する

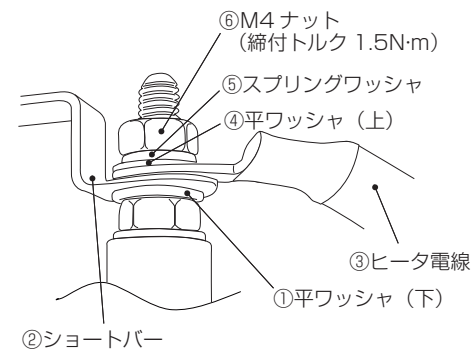
❗ 締め付け不良は、焼損など事故の原因となります。

26)泡検知レベルセンサのコネクタおよび空運転防止器のコネクタを接続します。その後、過熱保護サーモのコネクタを接続します(P.12 図-7 参照)。

27)ヒータ端子カバーを取り付けます。

28)蒸気ホースを差し込んでホースバンドで固定(締付トルク：1.5N・m程度)してください。

図-9



## 【給水タンク清掃】

給水タンク内にたまったスケール等を取り出す作業です。  
汚れの状況により、適宜実施してください。

- 1) 加湿器本体ケーシングを取り外します(P.12 図-6)。
- 2) 給水タンク天板に接続されているホースを取り外し、さらにフロートスイッチコネクタ 4 箇所を接続を外します(図-10)。
- 3) 給水タンク天板を固定しているビスを緩め、天板を取り外します。天板およびタンク内面がスケール等で汚れている場合はウエスでふき取ってください(図-11)。
- 4) フロートスイッチ表面がスケール等で汚れている場合にはウエスでふき取ってください。
- 5) フロートスイッチの作動をテストにより確認してください(2個ともフロートは取り付けられた状態でONです)。
  - 黒電線：高水位フロートスイッチ(図-10)
  - 白電線：低水位フロートスイッチ(図-10)
- 6) ボールタップがスムーズに上下するか確認してください。また、スケール等で汚れている場合はウエスでふき取ってください。
- 7) 清掃後、給水タンク天板を元通りに取り付けます。給水タンクのパッキンに傷等が無いことを確認し、給水タンクに取り付けてください。また、天板の固定ビスは順番通りに、かつ緩みのないように均一に締めてください(締付トルク： $1.0N \cdot m$ ) (図-12)。蒸気もれの原因となります。
- 8) ホースを差し込んでホースバンドで確実に固定(締付トルク： $2.0N \cdot m$ )してください。また、フロートスイッチコネクタ 4 箇所を接続します。
- 9) 元通り加湿器本体ケーシングを取り付けてください(P.12 図-6)。

図-10

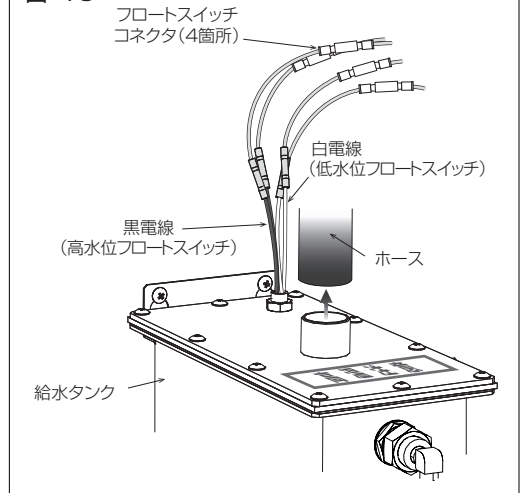


図-11

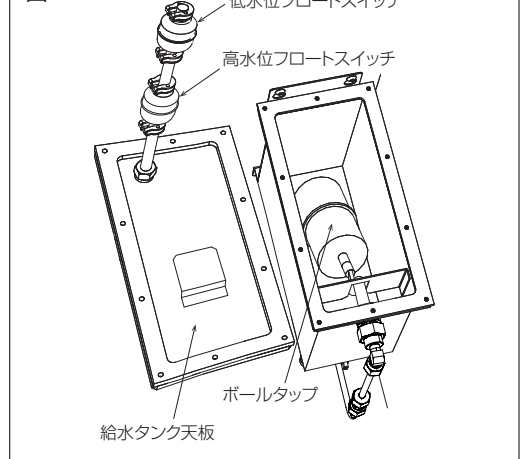
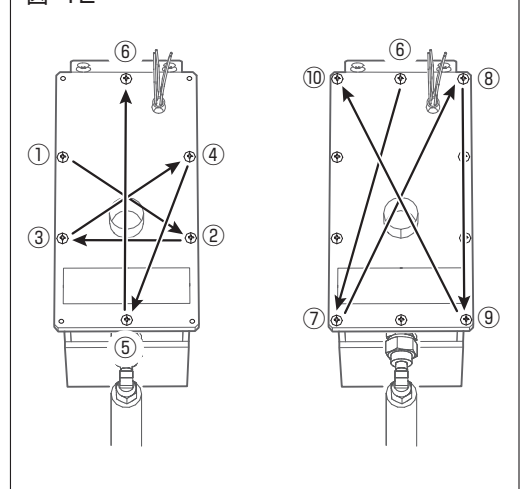


図-12



ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

仕様

参考

## 【運転再開】



警告

### 運転を開始する前に、下記の部位の閉止を必ず確認する(P.4 図-1 参照)

❗ 下記の部位を開放したまま運転すると、蒸気やドレンの噴出により、やけど等の事故の原因になります。

- 給水ストレーナのキャップ
- 残水排水ホースのプラグ

- 1) 上記の警告欄に示した部位の閉止を確認します。
- 2) 給水サービス弁を開けます。
- 3) 操作パネルの手動排水スイッチを OFF にします。
- 4) 加湿器の漏電ブレーカを ON にします。
- 5) 電源スイッチを ON にして運転を再開します。
- 6) 操作パネル表示部に点検清掃の予報コード **SECE** と比例積算運転時間が交互表示している場合は、P.30 「9-1 比例積算運転時間のリセットと変更」を参照して、比例積算運転時間をリセットしてください。

▪ 運転再開後は、各部からの蒸気もれ・水もれ等のないことを必ず確認してください。

ご使用前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら

仕様

参考



<b>No.3-B</b>	作業項目	ヒータ清掃・加熱タンク清掃・給水タンク清掃
	作業時期	操作パネル表示部に予報コード「CHEC」「SECE」の表示および加湿シーズンオフ時

本項は、SJB42～SJB85の加湿器に適用する作業です。  
 必要な工具など対辺7mmボックスドライバ、プラスドライバ、モンキーレンチ、トルクレンチ、カップ、トレー、ウエス、タワシ、テスタ、Oリング(加熱タンク天板用)

**警告** 作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する  
 けが・やけどの原因になります。

**【ヒータ清掃】**

加熱タンク内部を点検して、ヒータ表面にスケールが付着している場合には、ヒータの清掃作業が必要です。汚れの状況により、適宜実施してください。

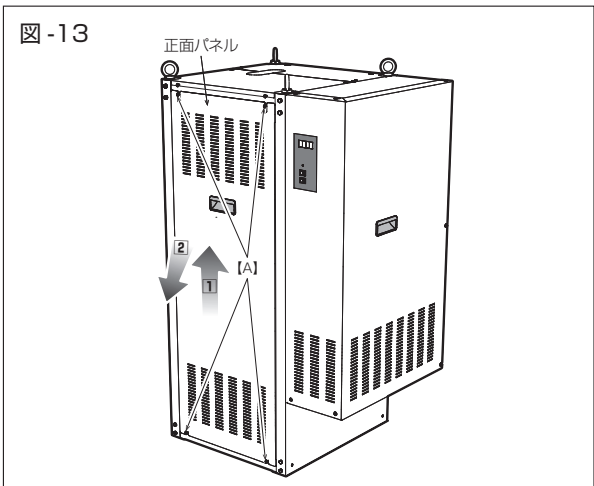
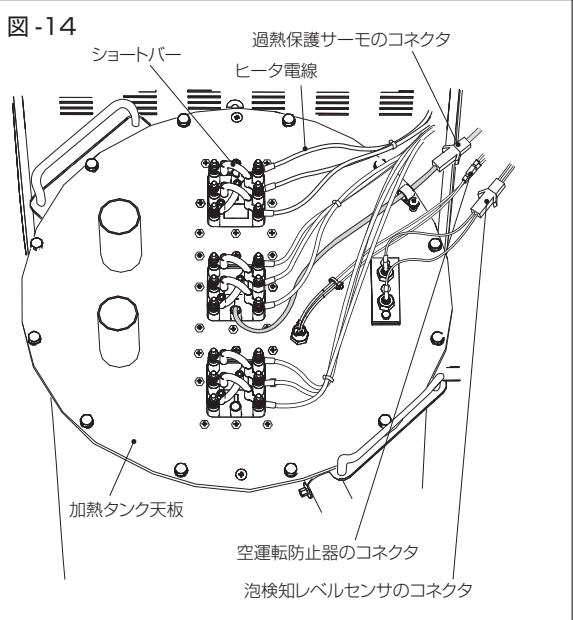
- 1) 給水サービス弁を閉めます。
- 2) 操作パネルの電源スイッチをONにします。
- 3) 操作パネルの手動排水スイッチをONにします。
- 4) そのまま15分ほど経過した後、操作パネルの手動排水スイッチをOFFにします。

▪ 手動排水の状態で20分以上放置すると、低水位検知機能により低水位表示灯が点灯（異常出力）しますが異常ではありません。操作パネルの電源スイッチを一旦OFFにしてからONにし、再起動することでリセットできます。

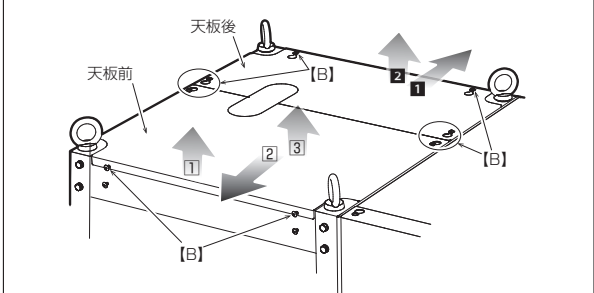
- 5) 操作パネルの電源スイッチをOFFにします。
- 6) 加湿器電源システムの漏電ブレーカをOFFにします。
- 7) この状態で2時間以上放置して、機器・配管が冷えるのを待ちます。

**警告** 作業は十分に冷えた事を確認してから行う  
 高温のまま作業すると熱水の排出によるやけどの原因になります。

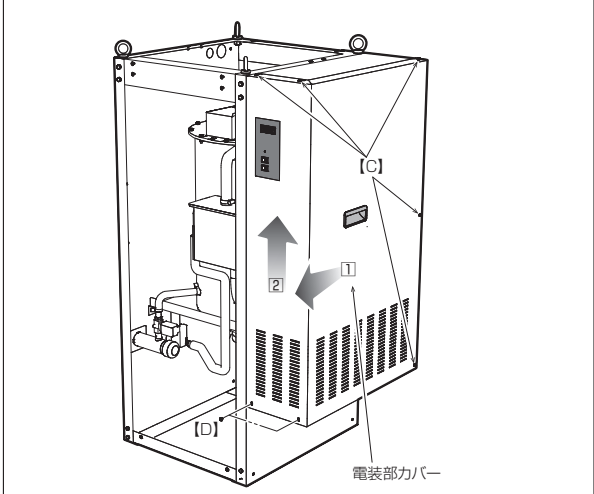
- 8) 加湿器本体ケーシングを取り外します(図-13)。
- 9) 加熱タンクに接続している蒸気ホースのホースバンドを緩め、蒸気ホースを外します。
- 10) ヒータ端子カバー (P.4 図-1 参照)を取り外します。
- 11) 過熱保護サーモのコネクタを外します(図-14)。



①ビス [A] (4点) を緩めて正面パネルを真上に2cm程度ずらし (1)、手前下方 (2) へ引き、取り外します。



②ビス [B] (8点) を緩め天板 (前・後) を取り外します。天板は以下の手順で取り外してください。  
 天板前: 真上に1cm程度上げ (1)、手前へ引き (2)、上へ持ち上げて取り外します (3)。  
 天板後: 加湿器後方側へスライドさせ (1)、上へ持ち上げて取り外します (2)。



③ビス [C] (5点) を緩め、ビス [D] (2点) を外し、電装部カバーを手前へ引き (1)、真上へ上げて (2) 取り外します。

ご使用の前に  
 各部の名称  
 運転動作  
 運転管理  
 一般保守要領  
 部品交換周期  
 故障かな? と思ったら?  
 仕様  
 参考

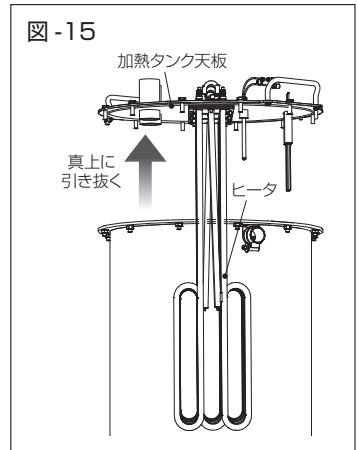
- 12) ヒータ電線をヒータ端子より外します（対辺 7mm ボックスドライバを使用）。その際にスプリングワッシャと平ワッシャを落とさないようにご注意ください。
- 13) 泡検知レベルセンサのコネクタおよび空運転防止器のコネクタを外します。
- 14) 加熱タンク天板を固定しているボルトナットを取り外します。
- 15) ヒータは加熱タンク天板に固定されています。ヒータ表面を傷つけないように注意して、真上に引き抜きます。この時、フランジ部が傷つかないように注意してください(図-15)。

・ 蒸気発生量の大きい型番では、安定した足場をご用意ください。

- 16) 加熱タンク上部のフランジ部のOリングを外し、Oリング溝およびフランジ面をきれいに清掃します。
- 17) ヒータ表面に付着したスケールをウエスで拭き取ります。

・ スケールが固着している場合でも、真ちゅうブラシで軽く落とす程度にとどめてください。ヒータ表面が傷つくと故障の原因となります。スケールの固着がひどく取り除けない場合は、ヒータ交換が必要です。当社による交換作業となりますのでお問い合わせください。

・ ヒータ交換が必要な場合は、必ず当社にご依頼ください。



### 【加熱タンク清掃】

加熱タンク内部を点検して、加熱タンク表面にスケールが付着している場合には、加熱タンクの清掃作業が必要です。汚れの状況により適宜実施してください。

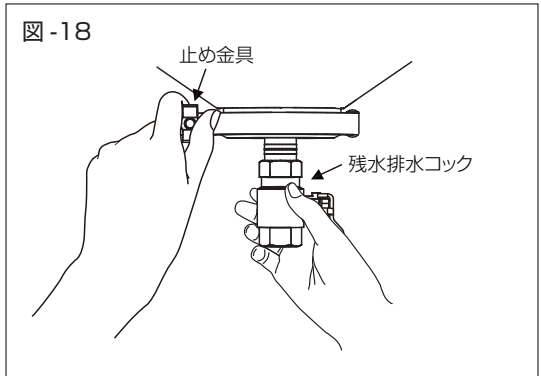
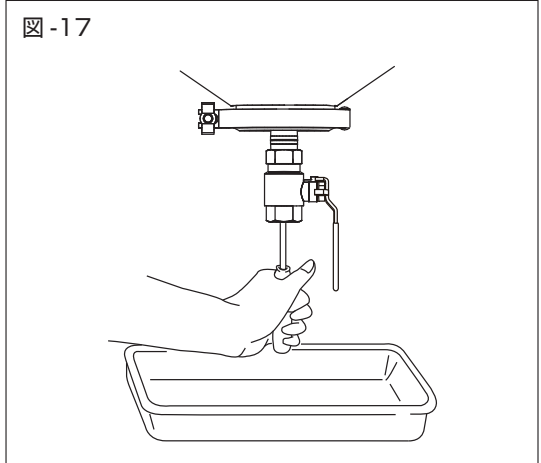
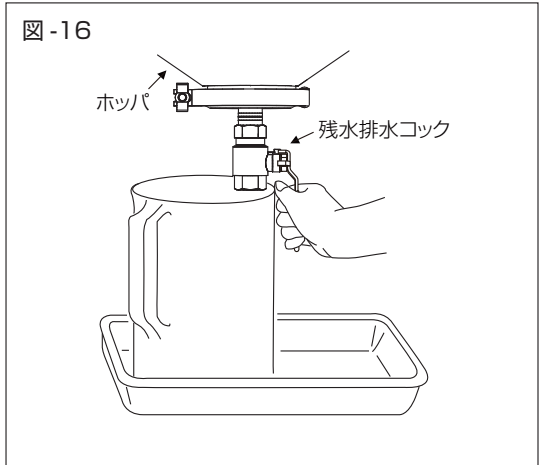
<b>警告</b>	<p><b>機器・配管が冷えていることを確認する</b></p> <p>下記の加熱タンク清掃の作業は、前述のヒータ清掃からの連続した作業手順として説明しています。加熱タンク清掃から作業をする場合には、事前に P.16【No 3-B】1)～7)の要領で作業を行い、機器および配管が十分に冷えていることを確認してください。高温のまま作業するとやけどの原因になります。</p>
-----------	---

- 18) 加熱タンク内のスケール排出のためにカップとトレーを用意し、加熱タンク残水排水コックを開けてホッパ部の残水をカップなどに受けます(図-16)。
- 19) 残水の出が悪いときは、スケールが詰まっているのでドライバなどで軽く突いてください(図-17)。
- 20) トレーなどを下に置き、残水排水コック本体をしっかり持ってホッパ下部のフタの止め金具を緩め、止め金具をゆっくり外して受けとめながら、フタとパッキンを外します(図-18)。

・ 止め金具およびフタは、金属製で重いのでご注意ください。

・ スケールが多量に出ることがありますのでご注意ください。

- 21) フタに付いたスケールをトレーなどに落とし、フタをきれいにします。



ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

仕様

参考

22) ホッパ部の内側に残ったスケールをタワシなどで落とした後、ウエスで内側を拭き取ります(図-19)。

23) 元通りホッパ部のパッキンの溝を合わせてフタを閉め、確実に止め金具で締め付けます。

24) 残水排水コックを確実に閉めます。

25) 加熱タンクの天板を元通り取り付けます(締付トルク: 2.6N・m)。

- Oリングを交換してください。
- 天板を固定するボルトナットは対角締めをして均等に締め付けてください(締付トルク: 2.6N・m)。

26) 元通りヒータ電線をヒータ端子に取り付けます。取り付けは図-20の番号順になります。M4 ナットの締付トルクは 1.5N・m です。確実に作業してください。



**警告**

**ヒータ電線の取付は確実に作業する**

❗ 締め付け不良は、焼損など事故の原因となります。

27) 泡検知レベルセンサのコネクタおよび空運転防止器のコネクタを接続します。その後、過熱保護サーモのコネクタを接続します(P.16 図-14 参照)。

28) ヒータ端子カバーを取り付けます。

29) 蒸気ホースを差し込んでホースバンドで固定(締付トルク: 1.5N・m 程度)してください。

図-19

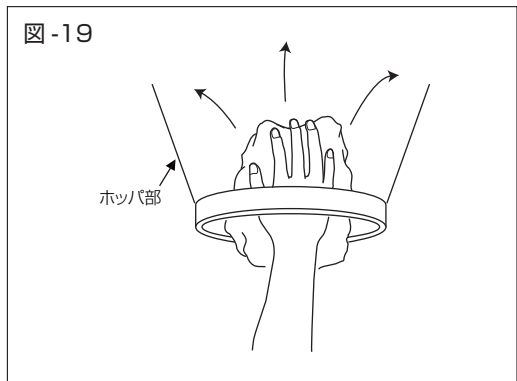
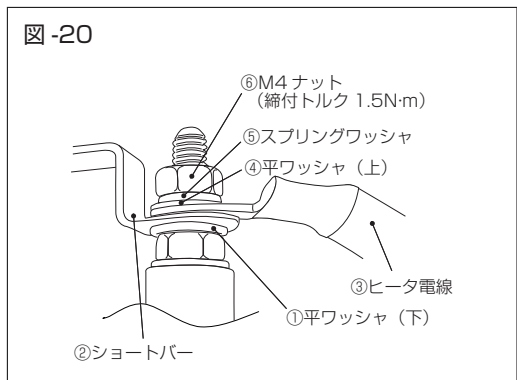


図-20



**【給水タンク清掃】**

給水タンク内にたまったスケール等を取り出す作業です。

汚れの状況により、適宜実施してください。

- 1) 加湿器本体ケーシングを取り外します(P.16 図-13)。
- 2) 給水タンク天板に接続されているホースを取り外し、さらにフロートスイッチコネクタ 4 箇所の接続を外します(図-21)。
- 3) 給水タンク天板を固定しているビスを緩め、天板を取り外します。天板およびタンク内面がスケール等で汚れている場合はウエスでふき取ってください(図-22)。
- 4) フロートスイッチ表面がスケール等で汚れている場合にはウエスでふき取ってください。
- 5) フロートスイッチの作動をテストにより確認してください(2 個ともフロートは取り付けられた状態で上 ON です)。
  - 黒電線: 高水位フロートスイッチ(図-21)
  - 白電線: 低水位フロートスイッチ(図-21)
- 6) ボールタップがスムーズに上下するか確認してください。また、スケール等で汚れている場合はウエスでふき取ってください。

図-21

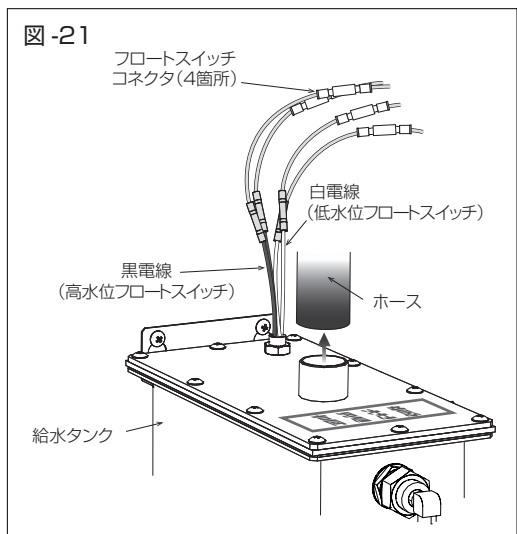
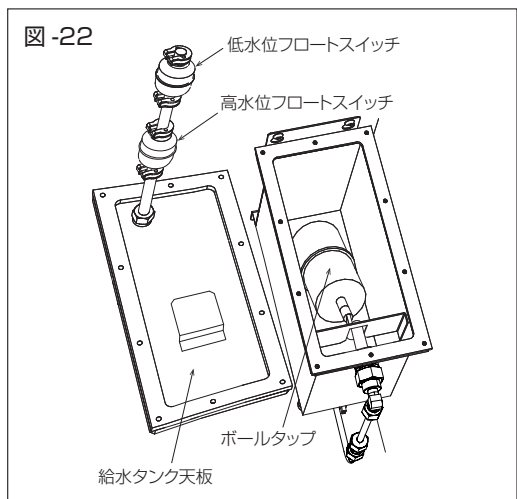


図-22

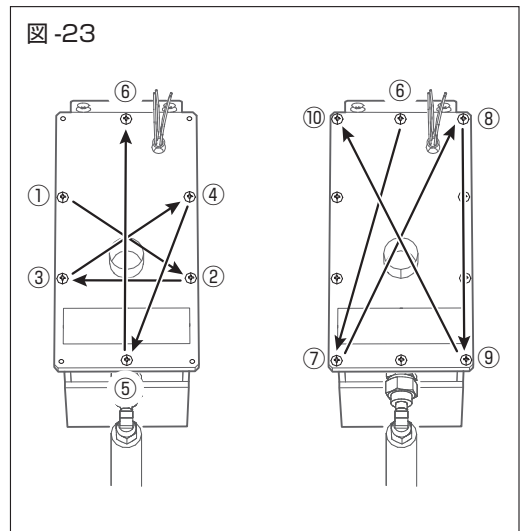


ご使用の前に  
各部の名称  
運転動作  
運転管理  
一般保守要領  
部品交換周期  
故障かな?と思ったら  
仕様  
参考

7) 清掃後、給水タンク天板を元通りに取り付けます。給水タンクのパッキンに傷等が無いことを確認し、給水タンクに取り付けてください。また、天板の固定ビスは順番通りに、かつ緩みのないように均一に締めてください（締付トルク：1.0N・m）（図-23）。蒸気もれの原因となります。

8) ホースを差し込んでホースバンドで確実に固定（締付トルク：2.0N・m）してください。また、フロートスイッチコネクタ4箇所を接続します。

9) 元通り加湿器本体ケーシングを取り付けてください(P.16 図-13)。



### 【運転再開】

運転を開始する前に、下記の部位の閉止を必ず確認する(P.4 図-1 参照)

❗ 下記の部位を開放したまま運転すると、蒸気やドレンの噴出により、やけど等の事故の原因になります。

- 給水ストレーナのキャップ
- 加熱タンク残水排水コック
- ホッパ形スケール排出口の止め金具

- 1) 上記の警告欄に示した部位の閉止を確認します。
- 2) 給水サービス弁を開けます。
- 3) 操作パネルの手動排水スイッチを OFF にします。
- 4) 加湿器の漏電ブレーカを ON にします。
- 5) 電源スイッチを ON にして運転を再開します。
- 6) 操作パネル表示部に点検清掃の予報コード **SECE** と比例積算運転時間が交互表示している場合は、P.30 「9-1 比例積算運転時間のリセットと変更」を参照して、比例積算運転時間をリセットしてください。

▪ 運転再開後は、各部からの蒸気もれ・水もれ等のないことを必ず確認してください。

# No.4

作業項目 加熱タンクの残水排水

作業時期 加湿シーズンオフなど連続した1週間以上の運転休止の前

必要な工具など：ドライバ、カップ、トレー

## 【加熱タンクの残水排水】

- 加湿器を運転休止する場合は、衛生面および運転再開時の保守作業に対する配慮から、加熱タンクの残水は必ず排水してください。

- 1) 給水サービス弁を閉めます。
- 2) 操作パネルの電源スイッチが OFF になっている場合は ON にします。
- 3) 操作パネルの手動排水スイッチを ON にします(加熱タンクの手動排水)。
- 4) そのまま 15 分以上経過した後、手動排水スイッチを OFF にします。

- 手動排水の状態でも 20 分以上放置すると、低水位検知機能により操作パネル表示部に警報コードが点灯(異常警報)しますが、異常ではありません。電源スイッチを OFF にすればリセットできます。

- 5) 操作パネルの電源スイッチを OFF にします。
- 6) 加湿器の漏電ブレーカを OFF にします。
- 7) この状態で 2 時間以上置いて、機器・配管が冷えるのを待ちます。



**警告**

### 作業は十分に冷えた事を確認してから行う

- ⚠ 高温のまま作業すると熱水の排出によるやけどの原因になります。

- 8) 加湿器本体ケーシングを取り外します(SJB03～SJB28：P.12 図-6 参照、SJB42～SJB85：P.16 図-13 参照)。
- 9) 加熱タンクの残水排水は、型番により 2 種類の作業方法があります。

#### SJB03～SJB28 の場合

水受け容器(カップ、トレーなど)を用意します。残水排水ホースをクランプから外し、先端のプラグを抜いて加熱タンクに残った水を排水します(P.4 図-1 参照)。排水後、プラグを元通り差し込み、残水排水ホースをクランプに取り付けます。

#### SJB42～SJB85 の場合

加熱タンク内のスケール排出のためにカップとトレーなどを用意し、加熱タンク残水排水コックを開けてホッパ部の残水をカップなどに受けます(図-24)。残水の出が悪いときは、スケールが詰まっているのでドライバなどで軽く突いてください(図-25)。排水後、残水排水コックを確実に閉めます。

図-24

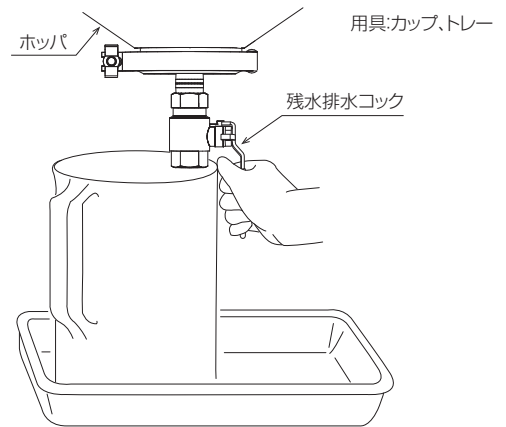
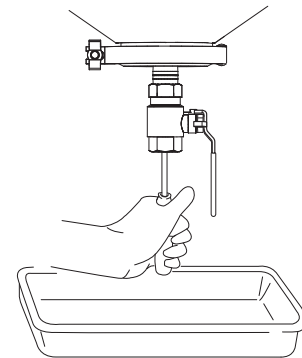


図-25

用具:ドライバなど



ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領


部品交換周期

故障かな? と思ったら?

仕様

参考

No.5

作業項目	給水配管のフラッシング (軟水器を併用の場合は軟水器入り口側も実施 ※軟水器取扱説明書を参照)	【動画】 給水配管の フラッシング 
	給水ストレーナ清掃 (軟水器を併用の場合は軟水器のストレーナ清掃 ※軟水器取扱説明書を参照) 加湿器電装部点検、各ホース点検	
作業時期	年 1 回 (加湿シーズンイン時)	

必要な工具など：プラスドライバ、モンキーレンチ

【給水配管のフラッシング】

⚠ 注意

バルブ類を開ける際は、周囲に漏水しないことを確認しながら作業をする

❗ 作業後にも漏水のチェックは確実に行ってください。

ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

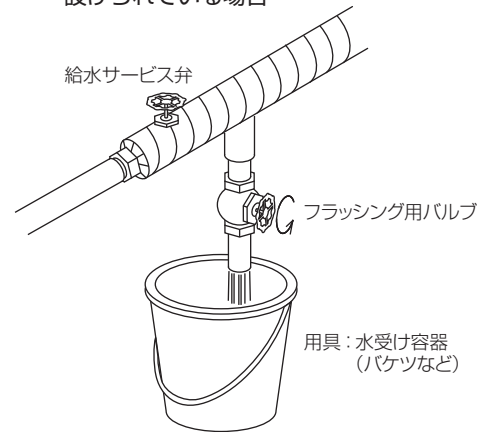
仕様

参考

1)現場配管の状況に応じた方法で、給水配管のフラッシングを実施します。給水がきれいになるまで十分に放水してください(図-26、図-27)。

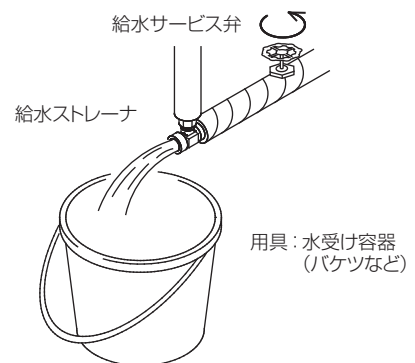
- 断熱材を外すときは、復旧時の養生を考慮して行ってください。
- 必ずダブルレンチで作業し、配管との接続部が緩まないようにしてください。
- 内部の残水が出ることがありますのでご注意ください。
- 給水圧力が高い場合や、エアが入っている場合など、水が勢いよく吹き出すことがありますのでご注意ください。

図-26 給水配管にフラッシング用バルブが設けられている場合



上図は実施例です。  
給水が無色透明、無臭になるまで十分に放水してください。

図-27 給水ストレーナからフラッシングする場合



- ※給水サービス弁は徐々に開けること
- ※給水がきれいになるまで十分にフラッシングすること

## 【給水ストレーナ清掃】

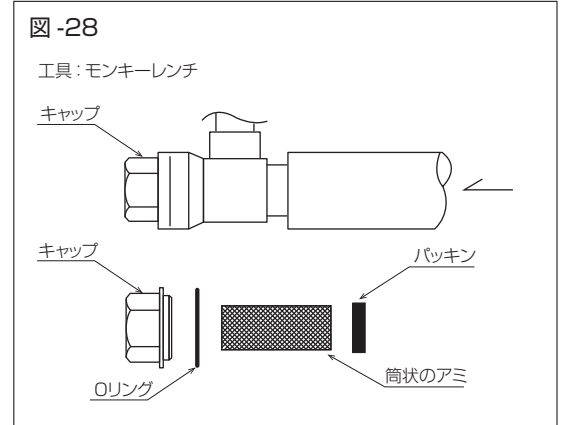
- 1) 給水サービス弁を閉めます。
- 2) 2本のモンキーレンチを使用して給水ストレーナのキャップを緩め、取り外します(図-28)。

- モンキーレンチは必ず2本使用してください。
- 保温材を外すときは、復旧時の養生を考慮して行ってください。
- 内部の残水が出ることがありますのでご注意ください。

- 3) 筒状のアミをきれいな水で洗います。

- 小さな部品なので、紛失にご注意ください。
- アミの内側にゴミ・異物が詰まっていないことを確認してください。
- キャップのOリングが切れていないことを確認してください。切れている場合は新しいものと交換してください。

- 4) 給水ストレーナを元のとおりに取り付け、キャップを締め込みます。
- 5) 給水サービス弁を開けて通水し、水もれがないことを確認します。
- 6) 保温材の養生を行います。



## 【各部の点検】

- 下記の項目について点検し、不具合、異常がある場合は調整または交換を行ってください。

### 加湿器電装部点検



**警告**

#### 加湿器の元電源を OFF にしてください

- ⚠ 通電したまま作業すると感電等の事故の原因になります。

- 1) SJB03～SJB28は加湿器本体ケーシング、SJB42～SJB85は電装部カバーを取り外します(SJB03～SJB28：P.12 図-6参照、SJB42～SJB85：P.16 図-13参照)。
- 2) 電装部内を目視点検し、以下の点をチェックします。

- 端子台への配線接続に、緩み・外れがないこと
- 制御基板への配線接続に、緩み・外れがないこと
- 各線材の切損・劣化・変色がないこと
- 基板、リレーなどに変色・変形・劣化がないこと

- 3) 元通り、加湿器本体ケーシングまたは電装部カバーを取り付けます。

### 各ホース点検

- 1) 蒸気ホースに蒸気もれや水もれの跡、変色や劣化のないことを確認してください。また、加湿器本体内部ホース各部についても、水もれの跡、変色や劣化のないことを確認してください。

ご使用前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領


部品交換周期

故障かな？  
と思ったら？

仕様

参考

## 【運転再開】

 <b>警告</b>	<b>運転を開始する前に、下記の部位の閉止を必ず確認する(P.4 図 -1 参照)</b>
	<p>❗ 下記の部位を開放したまま運転すると、蒸気やドレンの噴出により、やけど等の事故の原因になります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 給水ストレーナのキャップ</li><li><input type="checkbox"/> 残水排水ホースのプラグ (SJB03 ~ SJB28)</li><li><input type="checkbox"/> 加熱タンク残水排水コック (SJB42 ~ SJB85)</li><li><input type="checkbox"/> ホッパ形スケール排出口の止め金具 (SJB42 ~ SJB85)</li></ul>

- 1) 上記の警告欄に示した部位の閉止を確認します。
- 2) 給水サービス弁を開けます。
- 3) 操作パネルの手動排水スイッチを OFF にします。
- 4) 加湿器の漏電ブレーカを ON にします。
- 5) 電源スイッチを ON にして運転を再開します。
- 6) 操作パネル表示部に点検清掃の予報コード **SECE** と比例積算運転時間が交互表示している場合は、P.30 「9-1 比例積算運転時間のリセットと変更」を参照して、比例積算運転時間をリセットしてください。

- 運転再開後は、各部からの蒸気もれ・水もれ等のないことを必ず確認してください。



# 6 部品交換周期

## 6-1 部品交換周期について

### 6-1-1 予防保全を目的とした部品交換周期

- 本項は電熱式蒸気加湿器 SJB タイプの安全かつ衛生的な運転、機能維持に必要な保守点検周期および部品交換周期です。
- 本加湿器はさまざまな部品によって構成され、これらの部品は使用経過に伴い交換が必要になります。また、突発的な故障の防止や保全費の平準化が図れるなどのメリットがありますので、記載の交換周期での定期的な部品交換をお勧めします。
- 詳細情報として「製品展開図」を web サイトで公開していますので、そちらもあわせてご確認ください。
- P.25 「6-3 部品交換周期表」の表No 2 のボールタップを例にとると、一般空調では 5 年の使用（6 年目）で交換、年間空調では 2 年の使用（3 年目）での交換を表します。一般空調での 5 年は、経年的な劣化も合わせた交換周期としていますのでご理解ください。また、すべての部品を含む製品寿命は 10 年です。10 年経過後は加湿器本体の交換をご検討ください。
- P.25「6-3 部品交換周期表」は一般的な目安であり保証年数ではありません。使用環境や給水水質あるいはメンテナンスや給水フラッシング実施の程度など、稼働条件によっては部品交換年度前に故障が起きることもありえます。その場合、都度の部品交換を行ってください。
- P.25 の交換周期表に記載のない部品は、破損や劣化などがあれば都度交換してください。

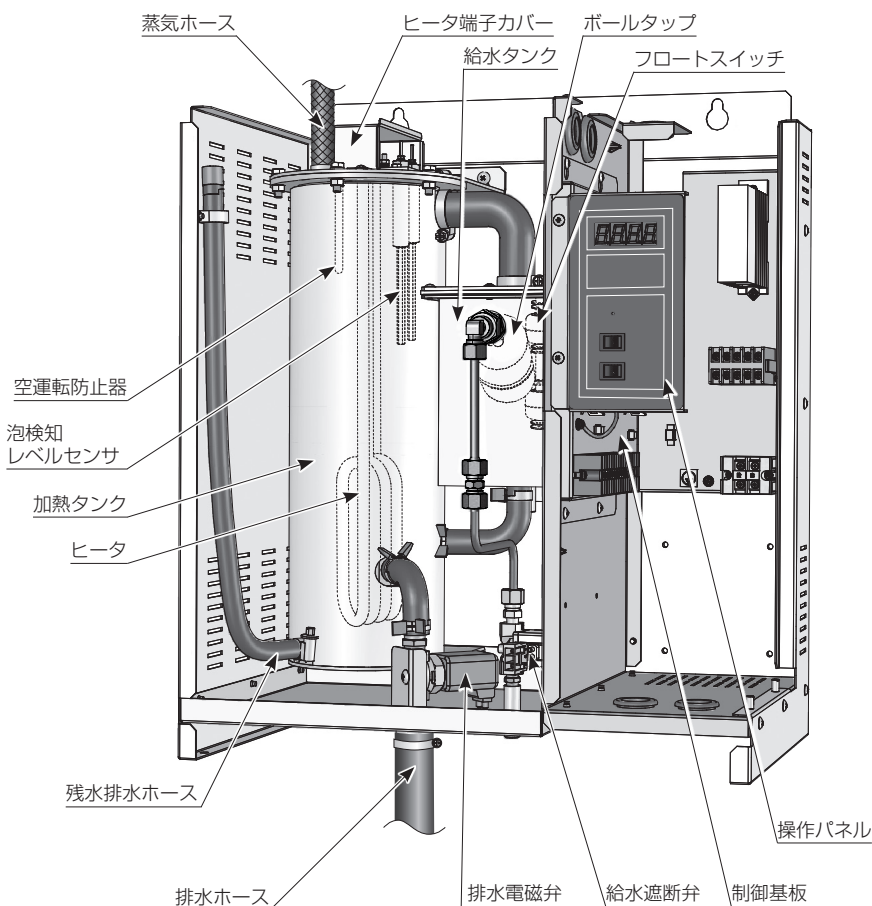


SJB タイプ  
製品展開図

### 6-1-2 建築物衛生法による加湿装置の維持管理について

- 建築物衛生法では、加湿装置の維持管理などについて下記の措置を定めています。
- ①加湿装置に供給する水は、水道水質基準を満たす水を用いること。
- ②加湿装置は使用開始時および使用期間中の 1 ヶ月以内ごとに 1 回の定期点検（必要に応じて清掃）、排水受け（ドレン受け等）を備えるものは同じく 1 ヶ月以内に 1 回の定期点検（必要に応じて清掃）、1 年に 1 回の定期的な清掃を求めています。

※ 下図は SJB03 の構造図です。型番により形状や部品の個数などが異なります。



ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな？  
と思ったら

仕様

参考

## 6-2 「一般空調」、「年間空調」が示す1年間の運転時間について

● 下記「6-3 部品交換周期表」に記載の「一般空調」、「年間空調」が示す1年間の運転時間の目安は下記のとおりです。

年間運転時間の目安		
一般空調	1,250 時間	10 時間 / 日 × 25 日 / 月 × 5 ヶ月 / 年 = 1,250 時間
年間空調	5,000 時間	冬期 : 20 時間 / 日 × 30 日 / 月 × 5 ヶ月 = 3,000 時間
		中間期 : 12 時間 / 日 × 30 日 / 月 × 4 ヶ月 = 1,440 時間
		夏期 : 6 時間 / 日 × 30 日 / 月 × 3 ヶ月 = 540 時間

## 6-3 部品交換周期表

No.	部品名称	加湿器使用開始後の経過年(年目)																												
		一般空調で使用する場合										年間空調で使用する場合																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10									
1	ヒータ <sup>*1</sup>						交換							交換		交換		交換		交換										
2	ボールタップ						交換							交換		交換		交換		交換										
3	フロートスイッチ						交換							交換		交換		交換		交換										
4	給水遮断弁						交換							交換		交換		交換		交換										
5	排水電磁弁						交換							交換		交換		交換		交換										
6	本体内部ホース類						交換							交換		交換		交換		交換										
7	泡検知レベルセンサ						交換							交換		交換		交換		交換										
8	冷却ファン <sup>*2</sup>						交換							交換		交換		交換		交換										
9	蒸気ホース						交換							交換		交換		交換		交換										
10	基板セット						交換									交換														
11	過熱保護サーモ						交換									交換														
12	空運転防止器	故障時															交換													
13	ソリッドステートリレー																										交換			
14	電源リレー																										交換			
15	蒸気フロア(FB) <sup>*3</sup>																										交換			
16	Oリング・パッキン類	分解清掃時・都度交換										分解清掃時・都度交換																		

※この交換周期は軟水または一次純水(導電率0.1~1.0mS/m)をご使用いただいた場合の一般的な目安であり、使用環境や稼働条件によっては交換年度前に部品故障発生の可能性があります。

※1:ヒータ寿命の目安は連続運転10,000時間としておりますが、水質によってはスケールによりヒータ表面の保護メッキ層が破損する場合があります。その場合にはヒータ通電の有無に関わらず、ヒータ管の腐食が進行し、絶縁不良となる恐れがあります。したがって、一般空調におけるヒータ耐用年数は5年、年間空調の耐用年数は2年と表記させて頂いております。

※2:冷却ファンはSJB14~SJB85、SJB14FBにのみ該当する部品です。

※3:蒸気フロアは、室内直接噴霧型(SJB03FB~SJB14FB)の場合にのみ該当する部品です。

## 6-4 交換部品の廃棄について

● 処分は産業廃棄物扱いになりますので、契約されている回収/運搬/中間処理業者や自治体などへご確認ください。

使用前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要項


部品交換周期

故障かな?と思ったら

仕様

参考

# 7 故障かな？と思ったら

 <b>警告</b>	保守点検作業、部品交換は設備機器に関する知識および作業経験者が行う
	❗ 作業に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。
	交換用部品は当社指定外のものは使用しない
	❗ 指定外の部品を取り付けた場合、故障や水もれ・感電・火災の原因になります。
	改造はしない
	❗ 故障や水もれ・感電・火災の原因になります。修理は当社または専門業者にご相談ください。

## 7-1 次の場合は故障ではありません

症状	状態	原因	処置
加湿器が 運転しない	操作パネル表示部が消灯	加湿器元電源の漏電ブレーカが OFF または停電している	電源を供給してください。
		加湿器本体電源スイッチが OFF	加湿器本体電源スイッチを ON にしてください。
	操作パネル表示部は点灯する が、加湿表示灯が消灯	ヒューミディスタットが OFF	ヒューミディスタットの設定値を確認してください。
		手動排水スイッチが ON	手動排水スイッチを OFF にしてください。
		給水サービス弁が閉止	給水サービス弁を開けてください。
		給水圧力が低い	給水圧力を確認し、 SJB03～42：0.05～0.5MPa SJB56・85：0.08～0.5MPa の範囲にしてください。
		インタロックをとった空調機が停止	空調機を運転してください。
		加熱タンクの残水排水コック (SJB42～SJB85のみ) が開放	残水排水コックを閉めてください。
		入力信号の設定が異なる	入力信号を正しく設定してください (設定要領書を参照)。
	運転開始直後で加熱タンク内が温まっていない	沸騰するまで待機してください。	
操作パネル表示部に <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">E.S.d</span> (入力信号設定異常) が点灯	入力信号の設定が <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R135</span> になっている	入力信号を正しく設定してください (設定要領書を参照)。	
	—	ヒューミディスタットの設定が低い	ヒューミディスタットの設定を確認し、設定湿度を上げてください。
運転している が加湿不足になる	—	給水圧力が低い	給水圧力を確認し、 SJB03～42：0.05～0.5MPa SJB56・85：0.08～0.5MPa の範囲にしてください。

## 7-2 状況確認と処置一覧表

症状	状態	異常信号 外部出力	原因	処置
加湿器が 運転しない	操作パネル表示部が消灯	-	基板上のヒューズ切れ	弊社宛サービスにお問い合わせください。
		-	空運転防止器が作動	弊社宛サービスにお問い合わせください。
運転しているが 加湿不足になる		-	ヒータの断線	弊社宛サービスにお問い合わせください。
			加熱コイルの表面汚れ	弊社宛サービスにお問い合わせください。

使用前の  
前に

各部の  
名称

運転  
動作

運転  
管理

一般  
保守要領

部品  
交換周期

故障  
かな？  
と思っ  
たら？

仕様

参考

## 7-3 エラーコード一覧

### 7-3-1 警報表示について

表示項目	警報表示	内容	本体の状態 / 対処方法
ヒータ過熱防止機能	<b>E0H</b> (EOH)	ヒータが過熱状態となった場合 (低水位によるヒータ露出時も含む)	<p>運転停止 (外部異常信号を出力)</p> <p>【対処方法】 ヒータの表面が汚れている場合は掃除してください。また、加湿器への給水水質を確認してください。</p> <p>【警報リセット方法】 操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。</p>
空運転防止機能	-(表示なし)	ヒータが過熱状態となり上記のヒータ過熱防止機能が作動しなかった場合	<p>運転停止および操作不能 (外部異常信号は出力しません)</p> <p>【対処方法】 弊社宛サービスにお問い合わせください。</p>
低水位検知機能	<b>ELL</b> (ELL)	<ul style="list-style-type: none"> <li>初期給水時 低水位状態が 1 時間以上続いた場合</li> <li>通常運転時および手動排水時 低水位状態が 20 分以上続いた場合</li> </ul>	<p>運転停止 (外部異常信号を出力)</p> <p>【対処方法】 以下の 4 点に当てはまっているか確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給水サービス弁が閉止</li> <li>手動排水スイッチが ON</li> <li>給水圧力が低い</li> <li>給水ストレーナが詰まっている</li> </ul> <p>当てはまらなかった場合は弊社宛サービスにお問い合わせください。</p> <p>【警報リセット方法】 操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。</p>
高水位・泡検知機能	-(表示なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高水位状態の場合</li> <li>泡立ちを検知した場合</li> </ul>	<p>警報を検知しない水位まで強制的に排水 (外部異常信号は出力しません)</p> <p>【対処方法】 加湿器への給水水質を確認してください。給水水質が原因ではなかった場合は、弊社宛サービスにお問い合わせください。</p>
給水遮断弁過電流検知	<b>FS</b> (FS)	給水遮断弁の故障により過電流を検知した場合	<p>運転停止 (外部異常信号を出力)</p> <p>【対処方法】 基板と給水遮断弁を交換してください。</p>
排水電磁弁過電流検知	<b>Fd</b> (Fd)	排水電磁弁の故障により過電流を検知した場合	<p>運転停止 (外部異常信号を出力)</p> <p>【対処方法】 基板と排水電磁弁を交換してください。</p>
サーミスタ断線警報	<b>EHD</b> (EHD)	過熱保護サーモ (TH) コネクタの接続忘れや、断線時に表示されます。	<p>運転停止 (外部異常信号を出力)</p> <p>【対処方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過熱保護サーモのコネクタが接続されているか確認します。</li> <li>過熱保護サーモのコネクタが断線している場合は、弊社宛サービスにお問い合わせください。</li> </ul> <p>【警報リセット方法】 操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。</p>
EEPROM エラー	<b>EEP</b> (EEP)	プログラムが保存データを上手く読み込めない場合に表示されます。	<p>運転停止 (外部異常信号を出力)</p> <p>【対処方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>操作パネルの電源スイッチを一度 OFF にしてから再度 ON にし、再起動しても「EEP」表示が出る場合は、制御基板故障の可能性があります。制御基板交換については、弊社宛サービスにお問い合わせください。</li> </ul>
型番未設定警報	<b>SJ00</b> (SJ00)	加湿器の型番が未設定	<p>運転停止 (外部異常信号は出力しません)</p> <p>【対処方法】 弊社宛サービスにお問い合わせください。</p>
入力信号設定異常警報	<b>.E.S.d.</b> (.E.S.d.)	入力信号の設定が <b>R135</b> になっている	<p>最低水位まで排水後、運転停止 (外部異常信号を出力)</p> <p>【対処方法】 入力信号を正しく設定してください (設定要領書参照)。</p> <p>【警報リセット方法】 操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。</p>

### 7-3-2 予報表示について

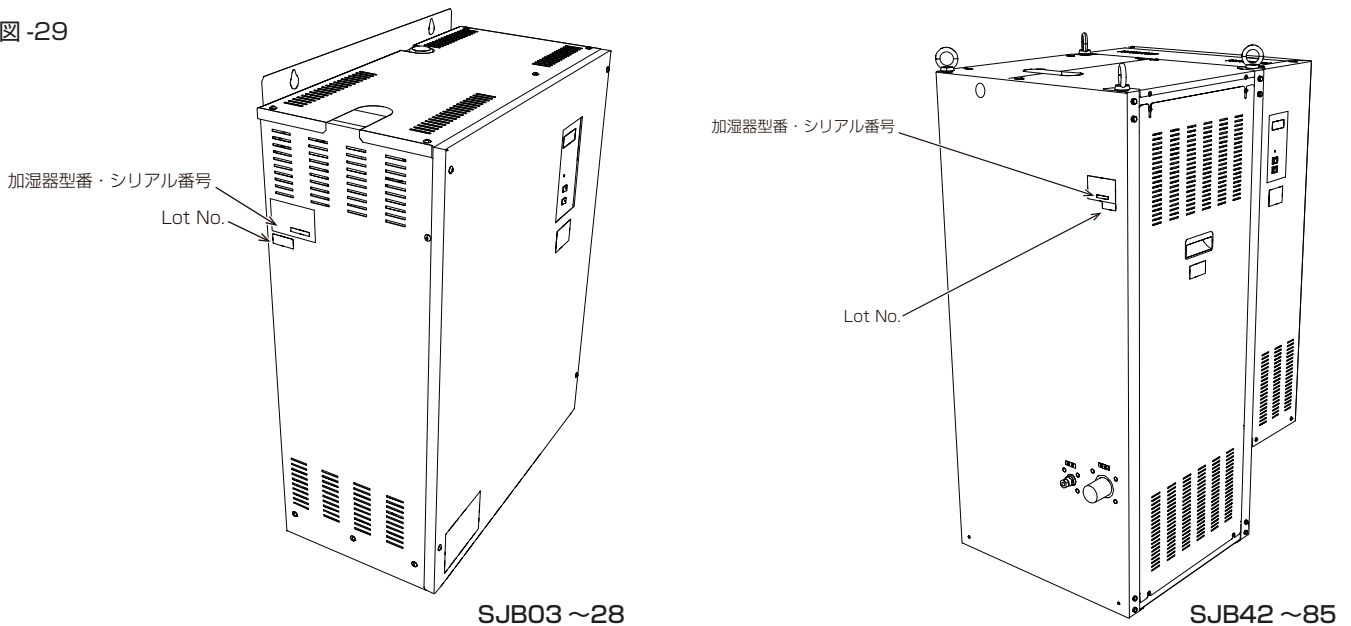
- 加湿器本体が予報（注意喚起）を検知すると操作パネルの表示部に比例積算運転時間と交互（約 1 秒ごと）に表示を行います。

表示項目	予報表示	内容	表示例	本体の状態 / 対処方法
定期点検表示		<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒータ表面にスケール等が付着し、ヒータ表面の温度が上昇した場合に表示されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記表示例は、比例積算運転時間が 9,570 時間で点検清掃の予報コードが表示された場合を表しています。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>加湿運転継続</li> </ul> <p>【対処方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期点検を行ってください。詳細は、P.12 または P.16 を参照してください。ヒータ表面にスケールが付着している場合はヒータの清掃が必要です。</li> <li>交互表示の解除は、操作パネルの電源スイッチを一度 OFF にし、再度 ON にします。</li> </ul>
点検清掃表示		<ul style="list-style-type: none"> <li>定期点検表示機能設定（設定要領書を参照）が「あり」に設定されている場合に、比例積算運転時間がヒータ寿命の 10,000 時間（目安）を経過すると、表示されます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SECE」と比例積算時間の予報コードが表示されます（下記表示例参照）。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>加湿運転継続</li> </ul> <p>【対処方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒータ交換の準備をしてください（弊社宛サービスにお問い合わせください）。</li> <li>交互表示の解除は、比例積算運転時間をリセットします。リセット方法は P.30 「9-1 比例積算運転時間のリセットと変更」を参照してください。</li> </ul>

### 7-4 状況確認と処置が終わったら

- 状況の確認とその処置が終わったら必ず運転確認を行い、正常な動作および配管各部からの水もれのないことを確認してください。
- 不都合な点があれば必ず修正し、なおも正常な動作を行わない場合は当社宛お問い合わせください。
- 当社宛お問い合わせの際は、当該加湿器の機種、型式、型番、ロット番号、シリアル番号（図 -29）、故障の状態をご確認ください。

図 -29



### 7-5 保証期間

- 当製品の保証期間は、製品出荷年の翌年末までです。取扱説明書および本体貼付ラベル等の要領に従った、正常な使用状態で故障した場合には無料修理いたします。
- 保証期間内においても、使用条件外での使用による故障、選定および取付の不良による故障、改造による故障、特殊用途での使用による故障などにつきましては、有料修理となります。また、取扱説明書に交換周期の明示されている部品の交換、作業時期の明示されている保守点検作業につきましては、保証期間内においても有料となる場合があります。

# 8 仕様

機種・型式		電熱式蒸気加湿器 [SJB] (比例制御 / ON-OFF 制御兼用)						
型番 (WM-)		SJB03	SJB07	SJB14	SJB28	SJB42	SJB56	SJB85
蒸気発生量 (kg/h) *1		3.2	7.2	14.2	28.4	42.5	56.8	85.0
		注：蒸気発生量の5～10%程度は蒸気ホースおよび蒸気噴霧管でドレンとなります。型番選定時にはドレン量を考慮した選定としてください。						
最大使用水量 (ℓ/h)	軟水の場合	3.7	8.3	16.3	32.7	48.9	65.3	97.8
	一次純水の場合	3.4	7.6	14.9	29.8	44.6	59.6	89.3
定格電源		単相 AC200V 50/60Hz	三相 AC200V 50/60Hz					
定格消費電力 (kW)		2.9	5.8	10.8	21.6	32.4	43.2	64.8
定格電流値 (A)		14.5	16.6	31.2	62.4	93.5	125	187
適合漏電ブレーカ	過電流容量 (A)	20	30	40	100	125	200	250
	感度電流 (mA)	30	30	30	30	100	100	100
制御信号*2	比例制御	電流入力：4～20mADC (入力インピーダンス 150Ω) 電圧入力：0～10V (入力インピーダンス 115kΩ)				注：蒸気発生量は制御信号により0～100%の範囲で調整が可能です。		
	ON-OFF 制御	二位置式ヒューミディスタットによる ON-OFF 信号						
外部信号		運転および警報を無電圧接点信号として取り出し可能						
本体質量 (kg)		23	35	37	54	90	102	155
本体運転時質量 (kg)		27	45	47	73	123	143	221
加熱タンク数		1						2
蒸気噴霧管数		1				2		4
蒸気噴霧管 (外径・長さ) (mm)		22-150	30-150	30-150	40-300	35-300	40-300	35-300
		22-300	30-300	30-300	40-450	35-450	40-450	35-450
		22-450	30-450	30-450	40-600	35-600	40-600	35-600
			30-600	30-600	40-900	35-900	40-900	35-900
				30-900	40-1200	35-1200	40-1200	35-1200
				30-1200	40-1500	35-1500	40-1500	35-1500
				30-1500				
本体塗装		アイボリー系 (マンセル 5Y7/1)						
電圧許容範囲		±10% 以内						
使用条件	本体周囲温湿度	1～40℃ (凍結しないこと) 80%RH 以下						
	噴霧管位置静圧	-1.0～+2.0kPa						
	給水水质*3	・軟水 ・一次純水 (導電率 0.1～1.0mS/m)				注：水道水 (水道法水质基準に準ずる飲料水) もご使用いただけますが、頻繁にメンテナンス作業が必要となります。		
	給水圧力、温度	0.05～0.5MPa 5～40℃					0.08～0.5MPa 5～40℃	
安全保護機能		1) ヒータ過熱防止機能 (ヒータ過熱時操作パネルにエラーコード表示 / 警報出力 / 運転停止) 2) 空運転防止機能 (操作パネルに表示なし / 警報出力なし / 運転停止) 3) 低水位検知機能 (初期給水時:1時間、通常運転時20分以上の低水位で操作パネルにエラーコード表示/警報出力/運転停止) 4) 高水位・泡検知機能 (操作パネルに表示なし / 警報出力なし / 強制ブロー) 5) 給水遮断弁過電流検知機能 (給水遮断弁過電流検知時操作パネルにエラーコード表示 / 警報出力 / 運転停止) 6) 排水電磁弁過電流検知機能 (排水電磁弁過電流検知時操作パネルにエラーコード表示 / 警報出力 / 運転停止)						

\*1: 記載の蒸気発生量は当社標準条件における定格電圧での値であり、電源電圧の変化に伴い増減します。また、定格電圧においてもヒータの特性により、蒸気発生量は±5%の範囲で変動します。蒸気ホースや蒸気噴霧管にて蒸気発生量の5～10%程度がドレンとなります (当社標準条件の場合)。加湿器選定時には、ドレン量を考慮した型番選定としてください。

立体拡散蒸気噴霧装置 (WM-SBA タイプ) をご使用の場合は、立体拡散蒸気噴霧装置のサイズや段数等によりドレン量が異なります。加湿器型番の変更が必要となる場合がありますので、弊社宛に選定をご依頼ください。

\*2: 製品出荷時には電流入力 (4～20mA) にセットしています。電圧入力または ON-OFF 制御でご使用の場合は、パラメータの設定変更が必要となります (設定変更操作につきましては、設定要領書をご参照ください)。

\*3: 製品出荷時には給水水质を軟水にセットしています。給水に一次純水をご使用の場合は、パラメータ設定にて水质ブロー設定変更が必要となります (設定変更操作につきましては、設定要領書をご参照ください)。

加湿器用水処理装置に供給する水は水道法水质基準に準ずる飲料水としてください。給水に軟水をご使用の場合、当社製自動再生型軟水器の採用をご検討ください。

# 9 参考

## 9-1 比例積算運転時間のリセットと変更

- 比例積算運転時間とはヒータ通電積算時間を指し、比例運転における延べ運転時間を積算し表示します。

### 9-1-1 比例積算運転時間のリセット方法

	<b>1.</b> 操作パネルの電源スイッチを ON にします。
	<b>2.</b> 表示部と、加湿表示灯が 3 秒間点灯します。
	<b>3.</b> 基板プログラムナンバーが 1 秒間表示されます。 ※ 例) プログラム番号 021 の場合の表示
	<b>4.</b> 比例積算運転時間が表示されます (表示される数字の 10 倍が実際の運転時間となります。左記は 1,000 時間の表示例)。
 	<b>5.</b> ENT ボタン(ENT)を押し、1桁目を点滅させます。
 	<b>6.</b> UP ボタン(UP)と DOWN ボタン(DOWN)を同時に 3 秒以上長押しすると、 運転時間が 0 時間 (「0000」時間)にリセットされます。
 	<b>7.</b> 数値設定が完了後、ENT ボタン(ENT)を押し、変更を確定させます。 変更が確定すると、表示部の点滅は止まります。

ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

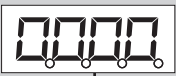









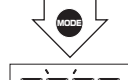



故障かな？  
と思ったら？

仕様

参考

## 9-1-2 比例積算運転時間の変更方法

例) 比例積算運転時間を 5,000 時間に設定する場合

	<p><b>1.</b> P.30の手順 1 ~ 4 を参照し、比例積算運転時間を表示させます。 (左記は 0 時間の表示例)</p>
 	<p><b>2.</b> ENT ボタン(ENT)を押し、1 桁目を点滅させます。</p>
 	<p>UP ボタン(▲)または DOWN ボタン(▼)を押し、設定したい数値にあわせませす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>UP ボタン(▲)または DOWN ボタン(▼)を押すごとに、0 ~ 9 までの数字がループして表示されます。</p> <p>▲ 0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9</p> <p>▼ 0 ← 1 ← 2 ← 3 ← 4 ← 5 ← 6 ← 7 ← 8 ← 9</p> </div>
 	<p>MODE ボタン(MODE)を押し、2 桁目を点滅させます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>MODE ボタン(MODE)を押すごとに、1 桁ずつ左に点滅箇所が移動し、桁の変更ができます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>1 桁目点滅</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>2 桁目点滅</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>4 桁目点滅</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>3 桁目点滅</p>  </div> </div> </div>
	<p><b>5.</b> 手順 3 ~ 4 を繰り返し、1 ~ 4 桁目まで数値の設定を行います。 表示される数字の 10 倍が実際の運転時間になるため、5,000 時間に設定したい場合は「0500」と入力します。</p>
 	<p><b>6.</b> 1 ~ 4 桁目までの数値設定完了後、ENT ボタン(ENT)を押し設定を確定させます。 変更が確定すると、表示部の点滅は止まります。</p>

ご使用の前に

各部の名称

運転動作

運転管理

一般保守要領

部品交換周期

故障かな?と思ったら

仕様

参考

 **ウェットマスター株式会社**

<https://www.wetmaster.co.jp>

〒161-8531 東京都新宿区中落合 3-15-15WM 本社ビル TEL.03-3954-1101 FAX.03-3952-4411

大阪支店 TEL.06-4790-6606 名古屋営業所 TEL.052-745-3277 仙台営業所 TEL.022-772-8121 福岡営業所 TEL.092-471-0371

QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。